

アニメ映画「平成狸合戦ぽんぽこ」における狸の神話性の分析

インドラワン
(0142043)

マラナタキリスト教大学
文学部
日本文学料

序論

私はこの論文で「平成^{へいせい}狸^{たぬき}合戦^{あつせん}ぽんぽこ」という映画^とを通して狸に関する神話を分析します。この映画は、1994年に日本で有名な漫画家^{たかはたいさおし}の高幡^{かんとく}勲氏が監督で、作られました。この映画は1995年に人気がありました。

狸は江戸時代^{えどじだい}の1602年にもうすでに繁殖^{はんしよく}してきました。日本人^{みんわ}は民話から狸について知っています。狸の長さは50センチから60センチぐらいです。狸は北日本から南日本まで存在しています。北海道から九州まで狸は必ず存在しています。狸は他の動物^かを狩ったり、野菜を食べたりします。この動物^{とくちよう}の特徴は目の辺りに変な黒い部分^{ぶぶん}があることです。

このアニメは人間と狸の戦い^{はなし}についての話です。私はこのアニメをバーセス・ロランドの神話的アプローチ^{りろん}理論を使って、分析します。バーセスによれば神話は明示的^{めいじてき}な意味^{いみ}と言外^{げんがい}の意味^{いみ}に分かれています。言外^よの意味はどのようにしてこの世にあるものごとを理解する

か、と言う尋常^{じんじょう}で自然な意味のことである。神話は実際にこの世に起^おこったものごとを象徴的に表すものです。神話の概念^{がいねん}は前代に起こった出来事を通して、それが何を表してるか現代の人間に理解させることです。（”Japan An Ilustraded Encyclopedia”）

私は狸の神話を「平成狸合戦ポンポコ」というアニメを通して日本人の信仰心^{しんこうしん}を理解し、そこからその神話を分析したいと思っています。

本論

権太^{ごんた}という狸は破壊^{はかい}しようとする人間達から森を守るためにいろいろな卑怯^{ひきょう}な計画を立てました。権太達は人間を怖^{こわ}がらせるためにある仕掛け^{しか}を使いました。狸達は変化の術^{じゅつ}を使って、橋や木などに変身しました。権太意外に正吉やおキヨという狸もいました。彼らは工事の人達を怖^{こわ}がらせるため双子に変身しました。その他に、顔がない女に変身して、偵察^{ていさつ}している警官^{けいかん}を怖^{こわ}がらせる狸もいました。

このアニメでは、狸達は^{きほんてき}基本的に分福茶釜^{ぶんぷくちやがま}に変身しました。変身練習をする前に、おろく^{おろく}婆^{ばば}に教わった分福茶釜狸に変化する^{きほん}基本変化を^{しゅうとく}習得しなければなりません。そのほかに、木の葉を使って変化する神話もあります。狸達は木の葉を頭の上につけて、変化します。このアニメには親父^{おやじ}にお金を渡す狸がいますが、そのお金は^{じっさい}実際お金に変化させた木の葉なのです。その他に女の人や男の人に^{じっさい}変化する術もあります。練習するときには権太はきれいな女の人に^{じっさい}変化しました。その後、権太について他の狸達は男の人に^{じっさい}変化しました。

このアニメでは、神社にいる^{たぬきちやうろう}狸長老が^{まほうのうりよく}魔法能力を持っているということを話します。彼らはその能力を使って、^と飛び^{にわとり}鶏や^{きよだい}巨大なカエルに変化して、^{ようかいだいさくせん}妖怪大作戦をやっ、人間を怖がらせます。この^{ちやうろうたち}長老達は神社では力のある狸の^{かみ}神としてたたえられます。

このアニメにキンチョという狸長老は四国にいる狸長老です。キンチョは東京にいる狸達に^{たの}頼まれ^{たまさぶろ}玉三郎と一緒に東京に行って、狸達と会議をしようとしてしました。キンチョは狸達と一緒に人間と戦う

けいかく^た 計画を立てました。その他に、キンチョも^{りゅうたろう} 竜太郎という狐とも相談しました。

結論

この映画から見て狸は日本人にとって頭がよくて、^{だま} 騙すことが好き動物と考えられます。日本人は狸が人間を騙すことができると思っています。英語では狸はbadgerと言われます。日本人も徳川家康という将軍は狸のような頭が良くて騙すことが好きなので、同じ性格を持っていると思っています。

アニメでは狸は好きなものに変化することができます。日本人は狸が魔法能力で変化する能力を持っている動物と思っています。神道の信者もその能力を認めています。

日本人は四国の民話にある長老されているキンチョを信じます。

全般的にこのアニメにある狸の言外意味はバーセス・ロランドの理論によれば頭がよくて、人間を騙すことができる卑怯な動物です。それから、狸も変化するための魔法能力をもっていると考えられます。

神道の^{しんじゃ}信者もこの動物を^{みと}認めています。まに、狸の長老と考えられる

キンチョがいることも日本人は^{しん}信じます。

DAFTAR ISI

	Halaman
KATA PENGANTAR	i
DAFTAR ISI	iv
BAB I PENDAHULUAN	
1.1 Latar belakang Masalah	1
1.2 Pembatasan Masalah.....	5
1.3 Tujuan Penelitian.....	5
1.4 Metode dan Teknik Penelitian.....	5
1.5 Organisasi Penulisan.....	9
BAB II TANUKI	
2.1 Pengertian Tanuki.....	11
2.2 Mitos Tanuki di Jepang.....	15
2.2.1 Kincho.....	18
2.2.2 Perubahan-perubahan Tanuki.....	19
2.2.2.1 Bumbuku Chagama.....	19
2.2.2.2 Perubahan Daun.....	22
2.2.3 Tanuki dalam kepercayaan Shintou.....	23

BAB III MITOS TANUKI DALAM FILM ANIMASI HEISEI TANUKI GASSEN POMPOKO

3.1 Tipu muslihat tanuki dalam animasi <i>Heisei Tanuki Gassen Pompoko</i>	28
3.1.1 Tipu muslihat tanuki dengan manusia tanpa wajah.....	29
3.1.2 Tipu muslihat tanuki dengan pohon, batu dan jembatan.....	32
3.1.3 Tipu muslihat tanuki dengan mengambil uang.....	34
3.1.4 Tipu muslihat tanuki dengan menakuti buruh bangunan.....	35
3.1.5 Makna Konotasi.....	39
3.2 Perubahan tanuki dalam film animasi <i>Heisei Tanuki Gassen Pompoko</i>	39
3.2.1 Perubahan tanuki menjadi laki-laki dan wanita.....	40
3.2.2 Perubahan tanuki menjadi ketel teh.....	41
3.2.3 Perubahan tanuki berkaitan dengan daun.....	42
3.2.4 Perubahan menjadi <i>Kitsune</i>	44
3.2.5 Makna konotasi.....	45
3.3 Tanuki sebagai dewa.....	46
3.3.1 Makna konotasi.....	48
3.4 <i>Kincho</i>	48
3.4.1 Makna konotasi.....	51

BAB IV KESIMPULAN

4.1 Kesimpulan..... 52

SINOPSIS

DAFTAR PUSTAKA

RIWAYAT HIDUP PENULIS

LAMPIRAN